

農政だより

第144号

令和8年4月

発行 羽村市農業委員会

羽村市緑ヶ丘5-2-1

電話 042-555-1111



第67回東京都農業委員会・農業者大会 企業の農業経営顕彰・農業委員会等功労者表彰

※4 ページに記事を掲載していますのでご覧ください。

本稿は、農業に関連する市内団体である羽村市農業団体協議会から寄稿していただきました。

羽村市農業団体協議会

会長 小作 裕徳

初めてのアメリカ農業視察から半世紀

大学3年の夏、研究室の教授が企画した「アメリカ農業視察」に参加したのは五十五年も前のことになるのだが、その時に見て来た光景は今でも鮮明に覚えている。

視察先は、シカゴガーフィールドパークの大温室、米国農務省農場、日系人の果樹農家（主にネクタリン・スモモを栽培）、ポインセチア・ポットマム・ワイン用苗の生産で温室の中に大型トレーラーも入ってしまう大規模経営のオキナーセリー・米国柑橘類研究所シトラスリサーチセンター等であった。今回は紙面の関係から「柑橘類研究所」をメインにお伝えしたいと思う。

「柑橘類研究所」視察当日、私達一行は宿泊先のホテルを出発してすぐに「これがアメリカなんだ！」と衝撃を受けることとなった。

視察先に向かう途中のトイレ休憩で立ち寄ったドライブインの店頭で、ピストルやライフル等様々な種類の本物の銃が売られていたのだ（とんでもないところに来てしまったのかもしれない）という恐怖を感じながらも、昼食休憩のためカリフォルニア大学リバーサイド校に到着すると、当時留学中だった大学の一年先輩の滝井伝一氏（タキイ種苗前社長）が迎えに来てくれ、少しホッとした。

「柑橘類研究所」に到着すると場長の案内で早速視察開始。

まずグレープフルーツ畑へ。一つの枝に果実が五個〜十個ブドウのように鈴なりになっていることからグレープフルーツと呼ばれるようになったのだが、ここではその特徴に合わせた収穫方法の機械化・剪定の機械化等の研究が行われていた。木を揺すってネットで受け止めて収穫する方法やトラクターに逆L字型の巨大なチェーンソーで角形に切り込んだ樹形は見事だった。

ちなみに、バレンシアオレンジやレモンの収穫も機械化の研究が行われていたが、枝の中にも果実が付くポルトガル原産のリスボンレモンは機械化が難しいとのことだった。

視察の最後に品種の見本園の見学をさせていただいた。世界中の柑橘類が栽培されており、日本の柚・温州みかん・金柑・ザボン等も見られた。これらを交配し新しい品種の開発に力を入れているとのことであった。

視察を終了した帰り「サンキスト」の大きな看板を発見。この辺りは貝殻層で水捌けが良い上に肥沃な土地で、柑橘類の生育に適しているため栽培が盛んな場所である。この世界一大きなサンキスト出荷組合から、世界中に向けて色々な柑橘が輸出されているのだ。

視察でたくさん刺激を受けた疲れからかバスの中でウトウトしていると、突然緑一面の畑の中に巨大なコンバインとトレーラーのダンプカーが目に入ってきた。近くに寄ってみると、加工用のトマトの収穫を行っていた。株ごとコンバインが吸い取って行きバイブレーターで熟した実だけが落ちてベルトコンベアーで隣のダンプカーに送られ、残渣はチップになって排出され肥料となる仕組みだった。この巨大なマシンには百ものコーラコーラのタンクも付いていて冷えたコーラがいつでも飲めるのだ。これまた「さすがアメリカ！」と感動したものだ。

あれから半世紀・・・先日和歌山県湯浅町で開催された「柑食祭」に参加し百種類以上の柑橘の試食をしてきた。私は現在約二十種類の柑橘を栽培中で、更にこれから植える予定の苗木も十種類保有しているのだが、このイベントに足を運んだことで益々（もっと）栽培品種を増やしたい！という意欲が湧いてきてしまったのである。



頑張ります

農業委員会

「農業実践力養成セミナー」 (旧定年等就農者セミナー)

1月29日、西多摩農業改良普及センターが主催する農業実践力養成セミナーがあり、石田会長の作業場で現地研修を行いました。石田会長によるネギの栽培や出荷作業の話に参加者は、熱心に耳を傾けた後、機械を使ってネギの根切りをしました。向きや置き方を何度も確認して1本ずつ作業していました。皮むきをする機械は、根の切り方で皮むきの状態が変わってくることを体感しました。



市議会環境まちづくり委員会委員と 農業委員会委員との懇談会

市議会環境まちづくり委員会と農業委員会は、2月4日に農業施策の推進に向けた意見交換会を行いました。はじめに石田会長が農業の現状と課題について説明をしました。農地が減少する中、異常気象や、肥料・資材の高騰など問題が多くあります。特に農業後継者問題や獣害対策についての質問意見が出され、予定時間を大幅に超えるほど活発な意見交換ができました。



農業日誌

農業後継者クラブと商工会の コラボ企画激辛フェス

2月1日、28日「はむら激辛フェス2026」が開催されました。農業後継者クラブと商工会青年部が連携して、羽村産トウガラシを使用した激辛料理を提供するイベントで、今年は10周年を記念して3月1日に小作駅東口ロータリーで旨辛メニューが集結したイベントを行いました。農業後継者クラブは、たくさんさんの野菜と辛味噌を使った旨辛豚汁を提供し、多くのお客様さんにぎわいました。



その他の活動

1月	2月	3月
6日 農産物直売所初荷式	4日 市議会環境まちづくり委員会と 農業委員会委員との懇談会	25日 はむら激辛フェス10周年記念イベント 農業委員会総会
22日 農業委員会総会	12・13日 農業委員会旅行 廃棄ビニール処分 農業者大会 農業委員会総会	1日 はむら激辛フェス10周年記念イベント 農業委員会総会

第六十七回 東京都農業委員会・農業者大会

2月24日、第六十七回東京都農業委員会・農業者大会が開催され、プリモホールゆとりぎ（羽村市生涯学習センターゆとりぎ）にて企業の農業経営顕彰と農業委員会等功労者表彰の受賞者表彰が行われました。舞台上のスローガンには、羽村市農業委員会の提案が採用されました。

第六十五回 企業の農業経営顕彰

東京都農業会議会長賞

金子 博文さん

金子 祐子さん



約20種類以上の野菜において、減農薬栽培に取り組み、市のブランド野菜「愛情野菜」を生産しており、農産物直売所を中心とした出荷を通じ、地産地消の推進に努めています。「東京都エコ農産物認証制度」の「エコ50」を取得し、環境に配慮した農業経営が認められました。

第五十二回 農業委員会等功労者表彰

東京都農業会議会長表彰

農業委員（委員通算15年以上）

石田 正弘さん

農業委員として長きにわたり市の農業の発展に尽力しており、東京都農業会議の常任理事に就任し都内全域の都市農業の振興に貢献されている功績が認められました。



農業功労者感謝状

大野 元雄さん

平成25年度から3期7年、農業委員を務め、周辺環境に配慮した農業経営に取り組み、獣医師としての確な診断と技術指導を行うことで、酪農経営の安定に大きく寄与してきました。



その他の各種表彰

内田農業振興会 農業功労者表彰

緑綬功労章

中島 浩志さん

高品質な花苗を安定出荷しており、市内「花いっぱい運動」で植栽する花苗や、観光資源であるチューリップの栽培等にも尽力されています。農業委員の時に、野菜収穫体験事業の実施に取り組み、その活動は20年以上継続されており、市民と農業をつなぐ事業となっています。地域振興及び農業団体の発展に貢献していることから表彰されました。



「普及センター」から

令和7年度 ジネンジョの栽培について

【概要】

羽村市農産物直売所では、独自の基準を満たした地場産野菜を「羽村愛情野菜」として販売を行っています。令和7年度は、その1品目として、3戸の生産者がジネンジョの栽培に取り組みました。12月中旬から収穫を開始し、1月中旬まで直売所で販売しました。

試作場所…羽村市神明台 ほか
使用資材…V字型パイプ、案内棒、支柱、ネット、
白黒マルチ、赤土

【栽培手順】

- ① 深さ10 cmの溝を掘り、赤土を充填したV字型パイプを埋め、パイプの位置を示す案内棒を設置しながらパイプが隠れるまで土をかぶせる（図1）。
- ② 案内棒の位置に種イモを並べる（図2）。
- ③ 種イモが隠れるように土をかぶせ、山なりの高畝にする（図3）。（このとき案内棒が完全に隠れないよう注意する）
- ④ 種イモからずらして支柱を立てネットを設置し、伸びてきたツルが巻き付くようにする。
- ⑤ 約2か月後、軽く追肥を行い、両側にマルチを敷く（図4）。
- ⑥ ツルが枯れたら収穫を行う。

表 栽培暦

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	...
旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
	●		◡						■	...

●：植えつけ ◡：マルチ展開 ■：収穫

【栽培の様子と収穫調査】

栽培期間を通して管理は非常に省力的で、化学肥料・農薬ともに少ない使用量で栽培することができました。7月中旬からチョウ目の幼虫による被害が少し見られましたが、収穫物への影響はなく、そのほかの病害虫は発生しませんでした。12月17日に最初の収穫を行い、割れがいくつも見られましたが、曲がりのないまっすぐしたもののが収穫できました。収穫調査では、1本あたりの平均重量は1.3 kg、長さは80 cm程度となりました。

【今後の展望】

今回、割れの原因は分かりませんでした。形の良いジネンジョを作るため、今後はさらにパイプの形状の検討などが必要です。今後も直売所活性化に向けた試作の一環として、JAにしたま野菜部羽村支部でジネンジョの栽培に取り組んでいきます。

【問い合わせ先】

東京都西多摩農業改良普及センター
電話 0428(31)2374



図3 種イモを埋めた後



図1 パイプを埋める



図4 2ヶ月後の様子



図2 目印の案内棒の位置に種イモを並べる



図5 出荷したジネンジョ

■ 生産緑地地区追加募集のお知らせ ■

令和8年度生産緑地地区追加指定申請の受付を予定しています。300㎡以上の農地が対象です。詳しい指定要件や申請書類については都市計画課までお問合せください。

受付期間 5月11日(月)～5月25日(月)予定

※土・日を除く

午前8時30分～午後5時

受付場所 まちづくり部 都市計画課

羽村市役所西庁舎2階

問合せ 042-555-1111(内線276・288)

■ 市民農園用地 ■

市民の農業への関心が高まる中、市民農園の利用希望者が増加しています。一方で、市民農園は相続等の影響で減少しています。

そこで市では市民農園用地を募集します。市と無償貸借契約を締結し、市民農園として使用している間は、固定資産税・都市計画税が免除となります。また、相続税納税猶予を受けたままでも貸借することが可能です。

市民農園の要件

- ・無償で貸していただける生産緑地であること
- ・15区画(300㎡)以上の区画数
- ・水道設備があること

■詳しくは羽村市農業委員会事務局まで

「はむら花と水のまつり2026」

水上公園沿いの桜や水田に咲くチューリップをお散歩しながら楽しんでみてはいかがでしょうか。

会場は、下記の図の場所です。

詳しくは市公式サイト、または広報はむらをご覧ください。

前期 さくらまつり



3月28日(土)～

4月12日(日)

午前10時～午後5時



後期 チューリップまつり

4月5日(日)～15日(水)

午前10時～午後5時



【編集後記】

芋焼酎がいつごろから旬わなくなったのかを調べているが、おおよその見当をつけるだけになっている。1980年代前半まではあったらしく、平成になってからは旬焼酎は少数派のようだ。キッカケは1996年ごろフランス大統領に就任していたジャック・シラク氏が「森伊蔵」を飲んでいたという新聞記事が全国的な話題になったことだ。当時の私はグルメのフランス人がワインでもコニヤックでもないのかと思議に思っていたが、シラク氏は有名な日本通であったため影響力は絶大であった。大統領が来日したら宮中晩さん会のテーブルに芋焼酎が並ぶのではないかと噂されていた。

行政が町おこし、特産品の宣伝、地名が世界的に有名になる・・・等を狙うとしたら、九州地方の焼酎は格好の参考書だと思う。農家、醸造会社、税務署、大学等関係する機関が多く、消費者がそれを支える構造になっている。私も蔵元にサツマイモを納品できたらどんなにいいだろうと思っている。

(五記)

【編集委員】

宮川篤、井上淳孝、阿部慎也、

下田壯、宮本健司

【事務局】

羽村市農業委員会事務局
(産業環境部産業振興課農政係)